

SDGsフォトコンテスト結果発表

企画政策課 ☎32-8005 FAX76-5021

「みよしの身近なSDGsを探そう」をテーマに令和4(2022)年9月から11月にかけてフォトコンテストを実施し、363点の作品の応募がありました。身近なSDGsに気付き、17のゴールを意識するきっかけとなったのではないかでしょうか。応募作品の中から一般の部8点、小・中学生の部13点の受賞作品を選定。その計21点の受賞作品を紹介します。



【みよし市長賞】

一般の部



「apple peel(りんごの皮)」

まつした かおり
松下 香織さん



▲受賞作品の被写体とな
った天王保育園業務員の近藤由衣さん

この写真は、廃棄するリンゴの皮でジャムを作ることを子どもたちに説明しているところです。食品ロスをなくすことを伝えていきたいです

【メッセージ】

りんごの皮のむき方を変えるだけで、廃棄されるごみの量が減り、捨てていた皮の部分まで美味しく食べることができる。小さな事かもしれないけれど、未来の子どもたちのために、一歩ずつできることから始めていきたいと思う。

【選定コメント】

幼い子どもたちに「廃棄物を減らす」知恵を教えることが、未来の地球を守る第一歩となります。



▲2月11日(祝)に市役所で行われたSDGsフォトコンテスト表彰式の様子



■SDGs(サステイナブル ディベロップメント ゴールズ Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)とは…「世界中の誰一人として取り残さない」をキーワードに、2030年に向けて持続可能な未来を実現していくための世界共通の目標です。世界中の全ての人々が取り組むことができるよう、17の目標、169のターゲットにより構成されています。

小・中学生の部



「ラブ&ピース」
きたちゅうがっこせいとかい
北中学校生徒会さん

【メッセージ】

どんなときも周りにいる人と手を取り合い、助け合える社会にしたい。年齢や性別、家柄、国籍は関係なく、どんな人も参加しやすい社会にしたい。そして、全ての人にとって平和な生活を。

【選定コメント】

「つないだ手」だけに焦点をあてることで、さまざまな主体が想像でき、周囲のすべての人々と手を取り合うことの大切さを教えてくれるメッセージ性の強い作品です。



「チラシのさいりょう」
おおばやし りょうと
大林 亮翔さん

【メッセージ】

チラシや新聞紙をビニールぶくろがわりにつかうことでかんきょうにやさしくなります。

【選定コメント】

日常生活の中で知恵を絞った一工夫をすることで、地球に優しい取り組みができるなどを教えてくれる作品です。



一般の部



「昔は全部一緒だったけどね、
今は分けるんだね。」
あん珠さん

小・中学生の部



「よまない本をよんでもらおう」
倉木 悠花さん



「土の力」
やすもと ふう
安本 楓さん

【メッセージ】

安立荘で暮らす101歳のご利用者のゴミ捨て場面です。「昔、ゴミは全部一緒くたに燃やしとったのよ～」と回想しながら、ゴミの分別に協力してくださっています。何歳になっても未来のために…



【メッセージ】

もうよまないような本をだれかにもういちど大切にしてもらって、そんなことがくり返しつづいてほしい。



【メッセージ】

私が取り組んでいることは、庭に置いてあるコンポストだ。生ゴミを焼却炉で燃やすよりコンポストで土に還した方が無駄なエネルギーを使わずにすむ。この作品を通して多くの人にコンポストに感心を持ってもらいたい。



みよし市教育委員会賞

小・中学生の部



「2.5cmのえんぴつ」

やすもと
安本 ひかるさん

【メッセージ】

ふつうみんな5cmとかにえんぴつがみじかくなつたらすててしまうけど、わたしは2.5cmまで使いました。まだ使えるので、1.5cmになるまで使います！



「自然を守り継ぐ」

こと
kotoさん

【メッセージ】

家の近くにある、三好丘緑地は虫や動物が沢山います。子供たちの遊び場である自然を守るため、みんなで頑張りましょう！



「わたしたちの声で全校募金！」

ほくぶしょうがっこうふくしこういんかい
北部小学校福祉委員会さん

【メッセージ】

学校の福祉委員会として赤い羽根募金活動に取り組みました。委員会のメンバーで分担をして、全校のみんなに声かけをしました。予想よりも重たくて、たくさんの人がみんなのために協力してくれたと感じました。



「短くなるまで頑張ったで賞」

なす
那須 有紗さん

【メッセージ】

鉛筆は小さくてもキャップを取り付けるとまだまだ使えます。なのでまだまだ大きいのに捨てるのはもったいないです。なので小さくなるまで使おう！ 大きいまま捨てるもったいない！



協賛企業賞

市と連携してSDGsの推進に向けた取り組みを実施する「みよし市SDGs推進パートナー」のうち、6つの協賛企業(株式会社カネヨシ、有限会社森島製作所、豊田信用金庫、イオン三好ショッピングセンター、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、社会福祉法人昭徳会 特別養護老人ホーム安立荘)による各賞を紹介します。

カネヨシ賞



一般の部



「みよしの絶滅危惧種・

ホンドギツネ」

すぎら まさる
杉浦 勝さん

【メッセージ】

市内には絶滅危惧種のカヤネズミ・クイナ・ヒクイナや希少種のホンドギツネ・ニホンリス・ハッショウトンボなどがごく少数ですが生息する。これらが今後も生き続けられるように①みよし市の自然環境が保たれること、②こうした希少種が開発や保全作業のために犠牲にならないために、条例化・作業要領化などの方策がなされることを願っています。



小・中学生の部



「守ろう。地球！ SDGsで

世界をへいわに」

かとう さくら
加藤 紗來さん

【メッセージ】

ゴミをへらし「ぶんべつ」をするとSDGsにつながること



Forest & Island賞



一般の部



「さつまいものクリスマスリース」

まえかわ さなえ
前川 紗苗さん

【メッセージ】

捨ててしまうサツマイモのつるを、子ども達と巻いて巻いて、乾燥させ、松ぼっくりなどで飾り付けをし、ミッキー風のクリスマスリースを作りました。子ども達と作ることで会話も増えて、茎は煮て食べたり、楽しかったです♪



一般の部



「パパの背中を追いかけて」

やまだ かほ
山田 佳穂さん

【メッセージ】

保田ヶ池公園に遊びに行きました。先を歩く父の背中を追いかけて自分の足で一生懸命に歩く息子。息子の背中を見ながら、我々大人の行動は次の世代の子どもたちのお手本になっていると考えさせられた一瞬でした。



小・中学生の部



「きれいにきれいに」

ほくぶしょうがっこうふくしきいんかい
北部小学校福祉委員会さん

【メッセージ】

ゴミのポイ捨ては生き物の命にも関わることがあります。なので、学校をきれいに掃除します。地球のこともみんなのことも考えて、みんなで取り組みます。



イオン三好ショッピングセンター賞

イオン三好ショッピングセンター

一般の部



「次の世代へ守り伝えたいもの」

やまだ けんと
山田 堅斗さん

【メッセージ】

さんさんの郷へ家族でピクニックに行った時の芝生広場での一枚。幼い我が子の足と向き合う親の足。世代を越えて、守り伝えていきたい色々なもの(人や自然など)を感じてもらえたなら嬉しいです。



小・中学生の部



「のこさずたべよう」

りんごちゃんさん

【メッセージ】

わたしが伝えたいことは、のうかの人やばくじょうでどうぶつを育てている人たちにかんしゃして、のこさずあじわってたべることを伝えたい。



一般の部



【メッセージ】

町中のゴミを拾う、なんて事しなくても一人一人が日常の中で、落ちているゴミをちょっと拾ってみる、それだけでいいんだよ。



「日常の中で」

竹島 蓮太朗さん

小・中学生の部



【メッセージ】

買うということは、いずれかは捨てるということなので買ったら責任を持って使い、捨てるときは、リサイクルする物を分別すると人の役に立つ品物になるとすることが持続可能になることだと思います。

「家のものを分別し、
リサイクルしたで賞」

吉川 寛人さん

●第2期みよし市SDGsプロジェクトチームの紹介



私たち東海学園大学の学生と市役所の若手職員で構成される「第2期みよし市SDGs推進プロジェクトチーム」は、令和3(2021)年度11月に結成後1年以上かけ、今回の「SDGsフォトコンテスト」に向けた取り組みを進めてきました(①)。

「市民へのSDGsの発信」をテーマに3チームに分かれ提案事業を検討し(②)、その中から「フォトコンテスト事業」の開催を決定。コンテスト開催方法の検討やチラシの作成(③)、市内4小学校への出前講座を通した周知啓発、協賛企業の募集を進みました。その後は応募作品の審査・決定、表彰式や作品展の準備・運営に至るまで学生と職員が共に知恵を絞り、力を合わせて取り組んできました(④)。

中でも市内4小学校への出前講座では東海学園大学の

一般の部



「着れなくなった服で、
黒板のさんをピカピカに！」
みいさん

小・中学生の部



「ペットボトルキャップで
すべての人に健康と福祉を」
かとう ゆな
加藤 由奈さん

【メッセージ】

4年生の子ども達とSDGsについて学んでいます。わたし自身、学校生活の中で水を汚さない工夫を考えました。着れなくなった服をはさみで切って、それを使って黒板のさんをふきます。できることから一歩ずつ！



【メッセージ】

ペットボトルキャップのような小さな事でも良いから、自分の出来ることから頑張ってやっていて欲しいです！



学生が講師に。小学生の皆さんに楽しみながらSDGsについて学んでいただけるよう、クイズを交えた授業⑤や廃材を用いたワークショップ⑥を行い、フォトコンテストに意欲的に参加していただきました。

またSDGs推進パートナーの皆さんにも協賛・協力をいただき、イオン三好店でのフォトコンテスト作品展やワークショップを盛大に実施でき、市民の皆さんがSDGsについて考えるきっかけが作れたのではないかと思いました。

令和5(2023)年度はメンバーの交代もありますが、市のさらなるSDGs推進のため、プロジェクトチームが一丸となり推進パートナーの皆さんにもご協力をいただきながら、さまざまな事業を展開していきたいと思います。

